

# 2019 年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第 35 回総会議事録

開催場所：仙台市戦災復興記念館 記念ホール

開催日時：2019 年 4 月 22 日(月) 13：00～13：45

総会進行：渡辺副幹事長 議事進行：大河原支部長

壇 上：大河原支部長、金子副支部長、事務局（瀬野幹事長、島本出納責任者）

参加者：85 名

## 1.開会

渡辺副幹事長による開会の挨拶、ならびに会場内での留意事項、本日の流れなどの事務連絡。

## 2.支部長挨拶

大河原支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- ・総会への出席と東北支部事業への支援等に関して御礼を申し上げた。
- ・総会議事録の作成を事務局（瀬野）が行うように指示した。

## 3.議事

○第一号議案 平成 30 年度事業報告

- ・事務局より事業報告の説明（議案書 p1～4）
- ・平成 30 年度総会、シンポジウム、意見交換会の開催を報告
- ・役員会、幹事会、運営委員会の開催と審議内容の報告
- ・ワーキンググループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」を計 5 回開催した。本部若手対策費を活用し事業展開を行い、5 回目には外部講師（松四雄騎准教授）を招いて GIS ソフトを用いた演習形式の研修会を開催している。
- ・「海底地すべりの露頭巡検」を秋田県横手市周辺で開催した。
- ・地すべり現地検討会は青森県中泊町にて「権現崎地すべり・下前地すべり」を対象に実施し、活動中の地すべり地の特徴やブロック区分や発生機構についてグループに分かれ検討、発表した。
- ・平成 30 年 5 月に発生した福島県喜多方市揚津地区の地すべり災害に対して、計 3 回の災害調査を派遣した。結果について、学会誌にするとともに全国大会でパネル展示を行った。
- ・支部だより第 29 号を平成 30 年 12 月に発刊した。同じ所属会社の会員にはまとめて発送することで経費の節減を図った。
- ・関連団体、地域貢献活動として、以下の活動を行った。
  - ① 宮城県砂防ボランティア協会への講師派遣（日本工営（株）仙台支店 池田 一氏）
  - ② 福島県会津農林事務所研修会へ講師派遣（国土防災技術（株）福島支店 熊井直也氏）
  - ③ 「岩手宮城内陸地震 10 年メモリアルシンポジウム」の共催

国際シンポジウムと現地視察を、栗原市「栗駒山麓ジオパーク協議会」を共同開催

※第一号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第二号議案 平成 30 年度収支決算報告及び監査報告

- 事務局より収支決算報告内容についての説明（議案書 p5～6）
- 技術講習会費(斜面変動コロキウム)に対する費用については、本部若手対策費を活用し全額充当したため決算額（113,258 円）は 0 円とする見込みである。
- 平成 30 年度の周囲決算は以下のとおり  
収益 1,676,516 円 支出 1,795,536 円 差額 -119,020 円  
次期繰越額 1,903,981 円 + (119,020 -113,258) 円=1,898,219 円
- 監事である三上登志男氏、渋谷 保氏による監査報告（議案書 p7）

※第二号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第三号議案 2019 年度事業計画(案)

- 事務局より 2019 年度事業計画(案)の説明（議案書 p8～11）
- 総会、シンポジウム、意見交換会の開催
- 役員会、幹事会、運営委員会及び各委員会の開催予定
- 支部若手技術者の技術的交流の場として、本部若手対策費を活用し地すべり調査技術の伝承を目的にワークグループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」を継続して行っていく。参加者は随時公募し、より多くの技術者の参加を促していく。
- 地すべりや特徴的な地形、地質に関する現地見学会的な小規模な巡検を企画する。
- 地すべりの継続的な現地調査や研究を行うための研究フィールドを設定し、若手を含む会員の技術向上と研究テーマの提供の可能性を企画する。現在、本部の「研究助成金」交付に申請中である（権現崎地すべりを選定）。
- 地すべり現地検討会を 9 月下旬～10 月中旬に岩手県八幡平市「八幡平地すべり」で実施する。テーマは「地すべりと地下水流動」として、地すべり発生機構と地下水の関係について流動解析結果（鉱毒水対策）をもとに検討する予定である。
- 災害調査、社会貢献活動、会勢拡大活動、他学協会との連携を推進する。
- 支部だより第 30 号を 2019 年 12 月に発行予定である。ホームページでの情報発信を推進するとともに、他委員会と連携し講師派遣などをおして支部活動の宣伝活動を推進する。
- 東北支部がこれまで取り組んできた。地形判読による地すべり地形の把握と危険度評価に関する研究成果を、広く一般に周知し普及させる目的で、分かり易く「使ってもらえる」書籍を 2020 年度内に発刊する予定であり、支部内に「出版委員会」を組織する（本部へ申請中）。

※ p8 の一部に修正を行う（一般社団法人→一般財団法人）指摘を受けたほかは、  
第三号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第四号議案 2019 年度収支予算(案)

- 事務局より収支予算(案)について、平成 30 年度収支決算及び実情に合わせた計画としている旨を説明（議案書 p12～13）
- 本部仮払金については次期繰越金 100 万円以下の支部を対象とするため、東北支部は該当しないことを説明した。
- 技術講習会費は昨年度に引き続き本部若手対策費を見込んでいるが、予算案では掛かる費用を計上している。
- 収支決算見込みは-358,950 円となる見込みである。

※第四号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第五号議案 支部運営規則改定（案）の件

（議案書 p14、巻末資料）

- 2018 年度総会において支部組織の見直しと組織改編が承認されたことを受け、「支部運営規則」を改定する。
  - 目的 : 支部組織との整合、総会、委員、委員会、会計等の明確化
  - 施行時期 : 2019 年 4 月 23 日
- 合わせて「支部表彰規定」を改定する。

※第五号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○その他（議案書 p15～17）

（1）代議員選挙結果

- 2019～2020 年度の代議員選挙が行われ、8 名の方が東北支部代議員として選出された。

（2）事務局移転について

- 移転場所：（株）テクノ長谷 → （株）復建技術コンサルタント
- 事務局 : 大澤宏明（出納責任者） 羽生こずえ（事務局）
- 移転時期：2019 年 5 月

これに伴い、支部監事を変更する。任期は現監事の残任期間とする。

- 新監事 : 渋谷 保（日特建設（株）） 橋本修一（（株）東北開発コンサルタント）

（3）協賛金について

- 協賛金のお願いは総会終了後、3 か月以内での対応をお願いしたい。
- 協賛をいただいた団体、企業については支部だよりに掲載します。

※その他事項に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

#### 4.報告事項（議案書p18）

○2019年度本部開催事業及び支部開催事業について

○書籍販売：「東北地方の地すべり・地すべり地形」を1冊5,000円（定価20,000円）で販売

#### 5.表彰

支部表彰規定第3条2項に則り、支部活動に多大な貢献をした以下の個人及び団体を表彰する。

○東北支部賞：東北地方の地すべりに関する研究、支部活動への顕著な功績

檜垣大助氏（弘前大学教授）

宮城豊彦氏（東北学院大学教授）

千葉則之氏（東北工業大学教授）

○感謝状：多年にわたる事務局として支部活動へ貢献

株式会社 テクノ長谷 様

#### 6.閉会

渡辺副幹事長が総会の閉会を告げ、シンポジウム及び意見交換会について説明した。



【総 会】

壇上右より、大河原支部長、金子副支部長  
瀬野幹事長、島本出納責任者

監査報告：三上監事、渋谷監事



【表 彰】 右上より、檜垣大助氏、宮城豊彦氏、千葉則之氏、(株)テクノ長谷(早坂会長)

# 公益社団法人 日本地すべり学会東北支部 2019 年度シンポジウム

## 「地すべりの安定化の判断、収束条件 ー概成の考え方、その後の管理の在り方についてー」

### 【開催概要】

日 時： 2019 年 4 月 22 日(月) 14:00～17:30

場 所： 仙台市戦災復興記念館 記念ホール

参加人数： 199 名

CPD： (公社)日本地すべり学会認定 3.25 時間 (認定番号：JLS050)

(公社)土木学会認定 3.20 時間 (認定番号：JSCE19-0295)

### 【趣旨】

地すべり調査解析及び対策工設計等においては、これまでにある程度の知見が蓄積されてきたものの、地すべり活動の収束を判断するには安全率だけではなく、多方面からの総合的な判断が必要になるものと考えます。各所管における概成基準や事例に関する知見を増やすことは、支部会員の多くを占めるコンサル技術者にとって大きなメリットとなると考え本シンポジウムを企画しました。総合討論は、コンサルの立場で感じた概成に関する技術的な疑問や概成基準の見直し等について、官学民の立場を超えた忌憚のない意見交換の場としたい。

【キーワード】 地すべり管理 概成基準 安全率 収束条件 再活動

### 【講演目次】

○趣旨説明 (14:00～14:05) コーディネーター：金子和亮 氏

○基調講演 (14:05～15:05)

「直轄地すべり防止工事の完了の考え方」(平成 16 年 1 月) 制定の経緯と完了事例

綱木亮介 様 (一般財団法人砂防・地すべり技術センター理事)

【要旨】 国交省では、平成 16 年 1 月に「直轄地すべりの完了の考え方」を制定した。それ以降、実際に数箇所の直轄地すべりがこの「考え方」に準じて「完了」している。そこで、制定から 15 年を経過した現在、「完了」(概成)の判断に関する標準的な道筋を示し、その過程で明らかになってきた課題についての認識を深めるため、この「考え方」制定の経緯と内容を振り返るとともに、具体の事例を紹介することにする。

(15:05～15:15) ～ 休 憩 ～

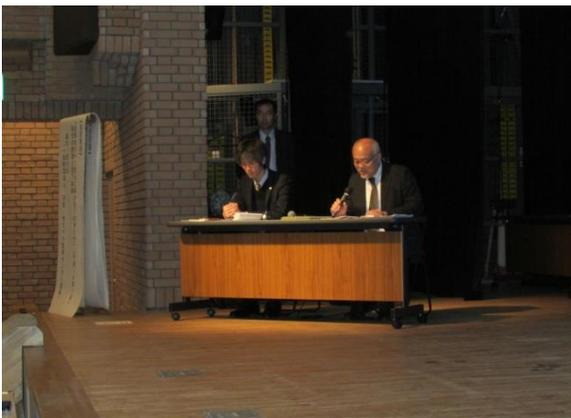
○講演 (15:15~16:35)

- 「概成(事業中断)した地すべりの再活動と事業再開」 細谷健介氏(新和設計株式会社)  
「河川沿いの地すべり再活動」 荻田茂氏(奥山ボーリング株式会社)  
「磐井川地すべりの概成について」 大坪俊介氏(国土防災技術株式会社)

(16:35~16:40) ~ 小休止(総合討論準備) ~

○総合討論 (16:40~17:25) 司会(コーディネーター): 金子和亮氏 大村泰氏

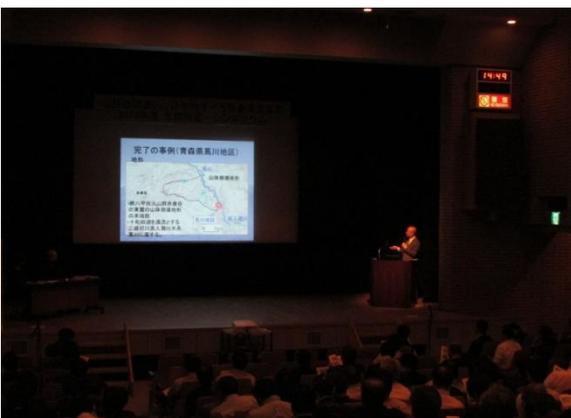
今回のテーマである「概成」を昨年度迎えた大きな現場もあったこともあり、昨年度同様の多くの方に参加して頂け、盛況のシンポジウムが開催できた。趣旨にある通り、各方面からの情報・話題提供を頂くことができ、総合討論含め活発な議論もなされた。



【金子副支部長の趣旨説明】



【綱木氏による基調講演】



【基調講演】



【細谷氏による講演】



【荻田氏による講演】



【大坪氏による講演】



【総合討論】



【会場の様子】

# 意見交換会

## 【開催概要】

場 所： グランテラス仙台国分町（仙台市青葉区国分町 2-2-2 TEL 022-262-7755）

参加人数： 74 名



【大河原支部長挨拶】



【乾杯 八木会長】



【歓 談】



【新旧事務局挨拶】



【支部賞受賞者挨拶 宮城先生・千葉先生】



【支部賞受賞挨拶をかねて檜垣先生の中締め！】

意見交換会の冒頭、今回の総会で受賞された檜垣先生、宮城先生、千葉先生の挨拶を頂いた。また、新旧事務局挨拶として(株)テクノ長谷の御三方（早坂氏、島本氏、阿部氏）、(株)復建技術コンサルタントのお二人（大澤氏、羽生氏）から挨拶を頂いた。八木学会長の乾杯～恒例のバンザイまで、例年に負けずの盛況であった。